

第 16 区

定数 18 名 候補者 18 名

候補者氏名（受付順）

1. 氏名 2. 生年月日 3. 主たる勤務地 4. 経歴 5. 抱負 6. 現職/新任/再任

1. 井上 匡美 2. 1966/3/3
3. 京都府立医科大学呼吸器外科学
4. 1990 年大阪大学卒業。2015 年～京都府立医科大学呼吸器外科学教授、2016 年～日本外科学会代議員、2021 年～京都府立医科大学附属病院副病院長、2023 年～日本呼吸器外科学会副理事長。
5. 小生が胸部外科学を通じて得た知識と経験を基に、己の手で病を根治せしめる外科学の魅力と重要性を若手に伝承し、生涯にわたり自ら学び考え、かつ倫理観を備えたアカデミックな外科医の育成に尽力する所存です。
6. 現職

1. 庄 雅之 2. 1964/5/27
3. 奈良県立医科大学消化器・総合外科
4. 1991 年 奈良県立医科大学卒業、第一外科入局
1999 年 Harvard Medical School 留学
2003 年 奈良県立医科大学消化器・総合外科 助手
2012 年 同 准教授
2016 年 同 教授
5. 学術活動、委員会、英文誌編集委員等の活動を通じて、日本外科学会のさらなる発展、若手育成、社会貢献などに、微力ながら精一杯貢献したいと考えております。
6. 現職

1. 鈴木 友彰 2. 1972/6/1
3. 滋賀医科大学
4. 51 歳 滋賀医科大学心臓血管外科
1997 年鳥根医科大学卒業
2019 年 3 月より滋賀医科大学心臓血管外科教授
5. 科学としての外科学の存在意義を明らかにし、若手外科医の育成と外科学会の発展のために尽力致します。
6. 現職

1. 貝田佐知子 2. 1976/2/11
3. 滋賀医科大学 外科学講座
4. 2001 年滋賀医大外科研修医
2003 年恵佑会札幌病院医員
2007 年東京大学大学院特別研究学生
2010 年同特別研究員
2010 年虎の門病院外科医員
2013 年滋賀医大外科医員
2015 年同助教
2023 年同講師
5. 女性ロボット外科医として技術と臨床の視点を融合し、外科医療の効率性と安全性を向上させ、多様性を尊重し、若手医師の成長と女性のリーダーシップを奨励。外科学の未来を築き、患者と医師の福祉に尽力します。
6. 新任

1. 池田 直也 2. 1964/4/24
3. 奈良県立医科大学消化器・総合外科学教室
4. 1992 年 奈良県立医科大学卒業
1992 年 奈良県立医科大学第一外科学教室入局
2006 年 奈良県立三室病院外科部長
2017 年～ 奈良県立医科大学消化器・総合外科学教室准教授
5. 外科学の魅力を若手に伝え、倫理観と患者に寄り添える人間性を兼ね備えた、視野の広いアカデミックな外科医を育成し、日本外科学会の発展に貢献したいと考えます。
6. 現職

1. 伊達 洋至 2. 1959/6/12
3. 京都大学呼吸器外科
4. 1984 年 3 月 岡山大学医学部卒業
2006 年 4 月 岡山大学腫瘍胸部外科教授
2007 年 10 月 京都大学呼吸器外科教授
5. 日本外科学会では、3 期理事をつとめ、CST 推進委員会の委員長として CST の普及に努めました。引き続き、日本外科学会の発展のために努力したいと考えております。
6. 現職

1. 澤端 章好 2. 1961/6/13
3. 奈良県立医科大学 胸部・心臓血管外科
4. 1988年奈良県立医科大学 医学部 卒業
2005年大阪大学 助教
2006年獨協医科大学 准教授
2008年大阪大学 准教授
2013年大阪大学 招聘教授
2017年奈良県立医科大学附属病院 呼吸器外科 教授
5. 呼吸器外科を中心とした地域医療や大学での診療・教育・研究の経験を活かし、日本の医療・研究、ことに日本外科学会の発展に尽力する所存であります。
6. 新任

1. 小濱 和貴 2. 1970/11/7
3. 京都大学消化管外科
4. 平成7年京都大学卒業、平成18年に京都大学大学院卒業、平成19年より京都大学消化管外科助教、平成22年より韓国ヨンセイ大学外科フェロー、平成23年より京都大学消化管外科講師、令和3年より同教授。
5. これまで邦文誌編集委員会幹事を4年務め、その他の委員会活動も経験いたしました。外科学の魅力の発信、若手外科医の教育、会員の労働環境向上に貢献したいと存じます。
6. 現職

1. 谷 眞至 2. 1962/11/29
3. 滋賀医科大学
4. 1987年3月 和歌山県立医科大学卒業
1999年2月 和歌山県立医科大学外科学第2講座 助手
2003年8月 同 講師
2013年1月 同 准教授
2014年8月 滋賀医科大学外科学講座 教授
5. 外科医不足に加え、働き方改革など外科を取り巻く環境は大きく変わりつつあるなかで、常になぜを考える科学の目を持つ若手外科医を育成し、外科の魅力伝えることで、医学の発展と地域医療への貢献に寄与します。
6. 現職

1. 杉森 志穂 2. 1967/5/31
3. 国保中央病院
4. 1992年奈良県立医科大学を卒業、第一外科（現消化器・総合外科）学教室に入局。2000年に学位取得。2007年から国保中央病院に勤務、2010年より部長。2023年4月奈良県立医科大学臨床教授を拝命。
5. 奈良県内の市中病院に長年勤務し、患者さんやご家族に寄り添った医療を心がけてきました。市中病院の女性外科医師の視点を活かして日本外科学会の発展に寄与したいと考えています。
6. 新任

1. 小野 滋 2. 1966/8/17
3. 京都府立医科大学小児外科
4. 1991年京都府立医科大学卒業、小児外科入局、2009年ロンドン大学GOS病院客員教授、2012年自治医科大学小児外科、2014年同教授、2023年1月より京都府立医科大学小児外科学教授
5. 日本小児外科学会理事長として日本外科学会との協働に尽力し、新専門医制度におけるサブスペシャリティの充実および若い外科医の教育・育成に全力で取り組み、学会のさらなる発展に寄与したいと考えます。
6. 現職

1. 大辻 英吾 2. 1958/4/22
3. 京都府立医科大学消化器外科
4. 昭和59年3月京都府立医科大学卒業
平成2年3月京都府立医科大学大学院医学研究科卒業
平成19年3月～京都府立医科大学大学院医学研究科消化器外科学教授
現在に至る
5. 消化器外科業務に従事してまいりました。外科学の発展と優秀で人間味のある若手外科医の育成を目指して、日本外科学会に貢献したいと考えております。
6. 現職

1. 直居 靖人 2. 1972/6/2
3. 京都府立医科大学 内分泌・乳腺外科学
4. 1999年, 大阪大学医学部卒業
2012年, 大阪大学医学部助教
2020年, 大阪大学医学部講師
2021年, 大阪大学医学部准教授 病院教授
2022年, 京都府立医科大学 内分泌・乳腺外科学 教授 外科代表教授
5. 乳癌の新たな手術法・再建手術法の開発, 及び手術検体を用いた基礎研究に力を入れております。2013年に開発した乳癌術後再発予測法: Curebest 95GC は現在薬事申請中です。宜しくお願い致します。
6. 新任

1. 湊谷 謙司 2. 1961/4/18
3. 京都大学医学部附属病院
4. 1987年に京都大学を卒業後, 小倉記念病院, 国立循環器病センターで修練し, カナダ, ドイツ, アメリカにて臨床留学。現在, 本会, 日本胸部外科学会, 日本心臓血管外科学会, 日本循環器学会の理事として活動中。
5. 若手医師が外科学に夢や希望を持てる環境を構築し, 指導医がより適切な待遇を得られるよう外科医の環境改善を図り, 臨床と学術活動を両立させた国際的活躍ができるよう, さらなる日本外科学会の発展に貢献したい。
6. 現職

1. 波多野悦朗 2. 1964/8/13
3. 京都大学医学研究科 肝胆膵・移植外科
4. 1989年 京都大学卒業 1998年 ノースカロライナ大学留学
2000年 京都大学 消化器外科 2016年 兵庫医科大学 肝胆膵外科 教授 2021年 京都大学 肝胆膵・移植外科 教授
5. 現在委員長を務めている CST 委員会を通じて若手外科医のトレーニングに関して貢献したい。さらに「外科医のインセンティブ」と「学会のあり方」に関しても若手の意見を聞いて議論したい。
6. 現職

1. 清水 智治 2. 1967/10/11
3. 国立大学法人滋賀医科大学
4. 1993年3月 滋賀医科大学卒業 2005年 滋賀医科大学 外科学講座 助手 2016年 同講師 2017年 同准教授 2020年3月 滋賀医科大学医学部附属病院 医療安全管理部 教授
5. 消化器外科および医療安全に関する学生・研修医教育, 外科専攻医・指導医の育成を通じて, 日本外科学会の発展に微力ながら貢献したいと存じます。
6. 新任

1. 夜久 均 2. 1957/7/18
3. 京都府立医科大学
4. 1982年 京都府立医科大学卒
84年 国立循環器病センターレジデント
90年 米国ヴァーモント大学
93年 豪州セントビンセント病院
2004年 京都府立医科大学心臓血管外科学教授
19年 病院長
23年 学長
5. 心臓血管外科学の基盤学会である日本外科学会の発展のために尽力する所存である。
6. 現職

1. 高田 正泰 2. 1974/4/22
3. 京都大学大学院医学研究科外科学講座乳腺外科学
4. 2000年 北海道大学医学部卒業, 2001年 東京都立駒込病院, 2007年 京都大学医学部附属病院, 2012年 医学博士(京都大学), 同特定助教, 2014年 同助教, 2021年 同准教授
5. 乳癌診療を中心に, 臨床・教育・研究に従事してきました。若手医師の育成, 研究の推進に寄与し, 本学会のさらなる発展のために尽力いたします。
6. 新任